

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

自然エネルギー活用植物工場（福祉型）整備計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

紋別市

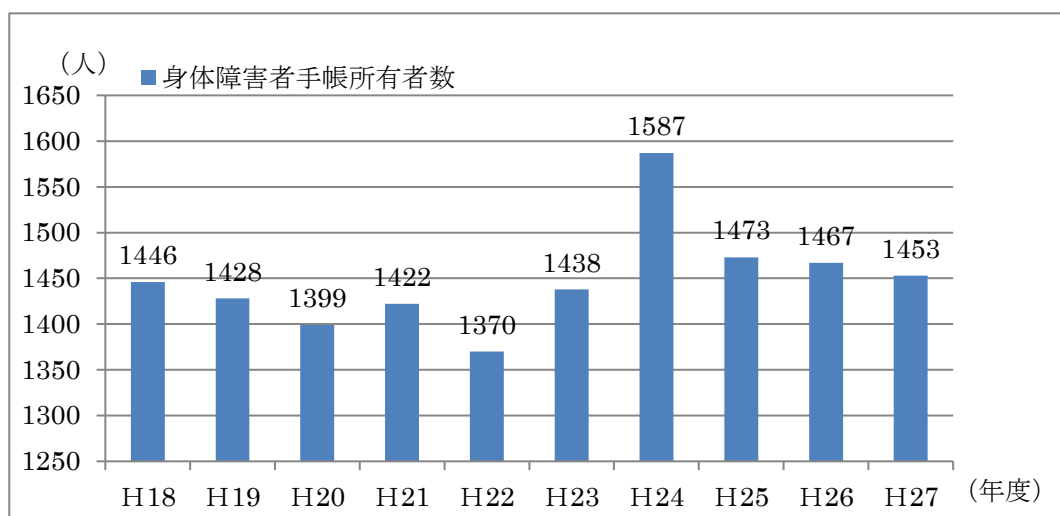
3 地域再生計画の区域

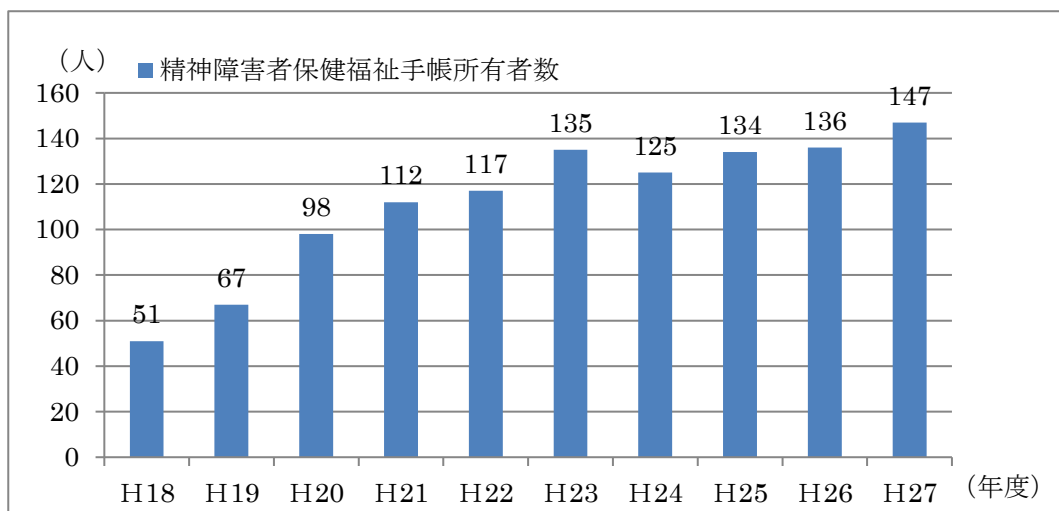
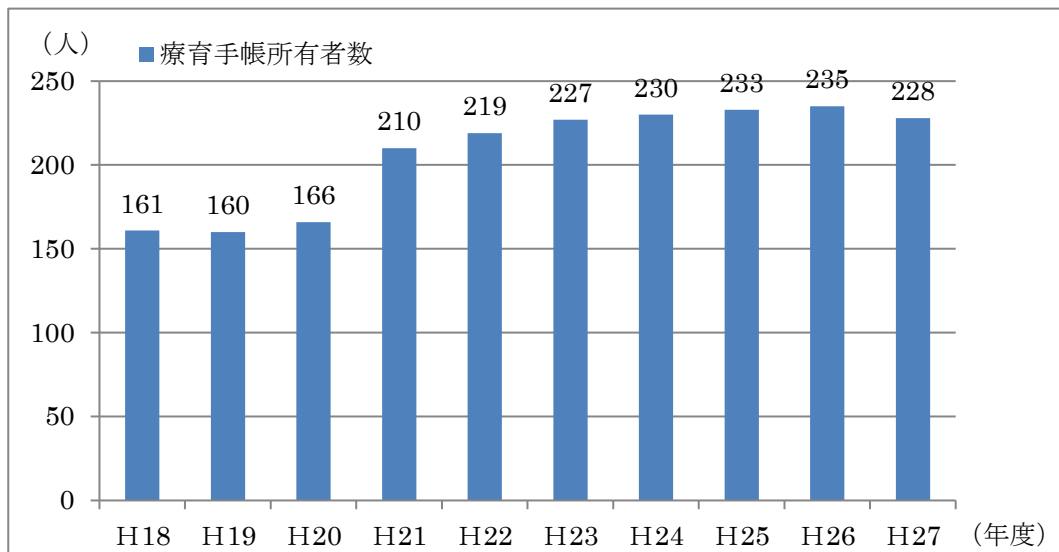
紋別市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

紋別市の人口は平成 27 年度末時点で 22,913 人であり、その内、市内の身体障害者手帳所有者は、平成 27 年度現在で 1,453 名、療育手帳所有者は 228 名、精神障害者保健福祉手帳所有者は 147 名となっている。人口 100 人当たりの手帳保有者数は 8 人となっており、中でも精神障害者保健福祉手帳所有者数は増加傾向にある。





4-2 地域の課題

本市には障害者を一般就労として受入れる企業が少なく、就労支援施設も8箇所と、資源が不足している。

また、本市で平成9年に開校した紋別高等養護学校は、他市町村出身の入学者が多く、在校する3年間は寮生活をおくっているが、卒業後は本市には定住せず、他市町村や出身地で就労する割合が高い状況にあり、当該高等養護学校卒業生に対する定住促進に向けた支援策が必要である。

○紋別高等養護学校卒業生の進路先（内数が市内就労者）

進路先区分\卒業年度		H25 年度	H26 年度	H27 年度
一般就労		9(0)	12(0)	10(3)
福祉サービス事業所	就労継続支援 A 型	7(0)	7(1)	3(1)
	就労移行支援	3(0)	6(0)	4(0)
	就労継続支援 B 型	6(0)	11(3)	4(0)
	生活介護	1(0)	1(0)	3(0)
	自立訓練	0(0)	0(0)	0(0)
	地域活動センター及び日中一時支援	1(0)	※3(0)	1(0)
その他	在宅	0(0)	1(0)	1(0)
	進学（職業能力開発校）	0(0)	0(0)	0(0)
計		27(0)	38(4)	26(4)

※就労継続支援 B 型併用利用者含む

4-3 目標

本市としては、市内に居住する障害者が活躍するまちづくりを目指して、就労先の確保や安心して生活ができる環境を整備することが重要であると認識しており、就労支援策の一環として就労支援施設となる太陽光型植物工場を整備するものである。

【数値目標】

事業	自然エネルギー活用植物工場 (福祉型) 整備事業		年月
	KPI	当該施設による障害者就労者数	
申請時	0人	0人	H28.6
初年度	0人	0人	H29.3
29年度	18人	4人	H30.3
30年度	0人	0人	H31.3
31年度	0人	0人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関する寄附を行った法人に対する特例
(内閣府):【A2007】

(1) 事業名: 自然エネルギー活用植物工場(福祉型)整備事業

(2) 事業区分: 移住・定住促進

(3) 事業の目的・内容

(目的)

紋別市では、平成27年度末時点の人口22,913人に対し、身体障害者手帳所有者数1,453名、療育手帳所有者数228名、精神障害者保健福祉手帳所有者数147名となっており、中でも精神障害者保健福祉手帳所有者数は増加傾向にある。

一方で、本市には障害者を一般就労として受入れる企業が少なく、就労支援施設も8箇所と、資源が不足している。

また、本市で平成9年に開校した紋別高等養護学校は、他市町村出身の入学者が多く、卒業後は他市町村や出身地で就労する割合が高い状況にあり、当該高等養護学校卒業生に対する定住促進に向けた支援策が必要である。

そこで、本市としては、市内に居住する障害者が活躍するまちづくりを目指して、就労先の確保や安心して生活ができる環境を整備し、就労支援策の一環として就労支援施設となる太陽光型植物工場の整備を行う。

(事業の内容)

障害者就労の場としての植物工場を紋別市が建設し、運営は市内の社会福祉法人または NPO 法人が就労継続支援事業所として運営する。

建設予定である植物工場は太陽光型となっており、温度、炭酸ガス、養液などの環境条件を自動制御装置で最適な環境に保ち、作物の播種、移植、収穫、出荷調整まで、周年計画的に一貫して行う生産システムを採用する予定である。

植物工場の施設内は、一定の温度に保たれた水耕栽培により野菜の生産を行ううえで、天候に左右されることがなく、生育期間が短い作物の場合は、生産性効率が高く、安定供給が可能となるほか、病虫害の被害を受けることがなく、作業内容は容易で、リスクも少ないため、障害者や高齢者の雇用促進に繋がることが期待できる。

太陽光型植物工場を障害者就労の場として活用し、障害者福祉の充実と、職業指導員等資格所有者や生活支援を行う高齢者の新たな仕事づくり、通年 27,025kg 出荷されることが予定されている葉物野菜の販路拡大を図ることにより安定した経営運営を進め、市内に居住する障害者や卒業後に転出していた紋別高等養護学校生徒の雇用の場を創出し、定住促進に繋げる。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本事業は紋別市総合戦略の基本目標 1「本市の特性を活かした産業づくりと安定した雇用の創出」の仕事づくり分野に該当しており、基本目標 1 の重点施策に位置づけられている。

数値目標は、「若い世代（18～39 歳）の市内雇用創出数⇒平成 31 年度までの累計で 130 人の正規雇用」となっている。

基本目標 1 の「(2) 人材育成・雇用対策の促進」の中で「④障害者の就労環境などの整備促進」として本事業を位置付けている。

総合戦略における「④障害者の就労環境などの整備促進」の K P I は「平成 31 年度までに障害者就労支援事業所通所者数を 33 人増加（H26：40 人⇒H31：73 人）」であり、本事業により半数が達成されることとなる。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	自然エネルギー活用植物工場 （福祉型）整備事業		年月
	KPI	当該施設による障害者就労者数	
申請時	0人	0人	H28.6
初年度	0人	0人	H29.3
29年度	18人	4人	H30.3

(6) 事業費

（単位：千円）

自然エネルギー 活用植物工場（福 祉型）整備事業	年度	H28
		事業費計
区分	工事請負費	273,000

(7) 寄附の見込額

（単位：千円）

自然エネルギー 活用植物工場（福 祉型）整備事業	年度	H28
	事業費計	273,000
	寄附額計	10,000
寄附法人	非鉄金属メーカー	10,000

(8) 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

（評価の手法）

事業のKPIである当該施設による障害者就労者数について、実績値を公表する。
また、紋別市地方創生・人口減少対策市民検討会議により事業の結果を検証し、
改善点を踏まえて次の障害者就労施策につなげる。

（評価の時期・内容）

紋別市地方創生・人口減少対策市民検討会議で平成29年6月に効果検証を行い
新たな障害者就労施策につなげる。

（公表の方法）

目標の達成状況については、検証後速やかに紋別市公式WEBサイト上で公表
する。

(9) 事業期間 平成28年8月～平成29年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置
該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

障害者就労環境整備事業

事業概要：植物工場安定運営を図るための販路拡大協力、情報提供を積極的に行うとともに、自然エネルギー活用植物工場（福祉型）整備事業に次ぐ新たな障害者就労先を毎年度検討・設置する予定。また、就労している障害者の方が安心して働けるように、グループホームなど住環境の整備を行い、定住促進を図るため一体的な取組を行う。

実施主体：紋別市

事業期間：平成29年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIである当該施設による障害者就労者数について、実績値を公表する。また、紋別市地方創生・人口減少対策市民検討会議により事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次の障害者就労施策につなげる。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

紋別市地方創生・人口減少対策市民検討会議で毎年度6月に効果検証を行い新たな障害者就労施策につなげる。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに紋別市公式WEBサイト上で公表する。